

はじめに

「福島県再生可能エネルギー推進ビジョン」を受けて策定された「再生可能エネルギー先駆けの地アクションプラン」では、再生可能エネルギー推進に向けた行動計画が定められている。アクションプランは、「地域主導」、「産業集積」、「復興を牽引」が3つの柱となっており、再生可能エネルギー関連産業の集積による雇用創出、地域活性への期待は大きいものとなっている。

再生可能エネルギーの中でも特に風力発電は、関連分野が多くの産業にまたがり、自動車産業にも匹敵するほど裾野が広い産業である。さらに、現在実証研究が進められている浮体式洋上風力発電で使用される浮体も、数千トンもの鋼材で構成されているものであり、浮体式洋上風力発電は、福島の復興、新産業の創出といった波及が期待できる分野である。一方で、風力発電市場においては既存のサプライチェーンが強固であり、新規に参入することは容易なことではないとも言われている。

以上の背景から、風力発電関連産業の集積およびそれを通じた一層の産業振興を図るには、着実に実行可能なプランを策定することが重要である。本調査では、風力発電産業・福島県産業特性等の分析を通じて、風力発電関連産業の集積に向けた実施可能な目指すべきシナリオ、現実的な方策を提示することを目的として調査・検討を行った。

検討に当たっては、陸上風力発電、洋上風力発電、小形風力発電の3つの分野について、現実的に経済的効果および雇用を県内に創出するにはどのような方策が必要となるかという観点から、製造業のみにこだわらず広く検討することを基本としている。新たな大型工場進出・誘致が難しい状況の中、浮体式洋上風力発電の実証研究プロジェクトや陸上風力発電の導入の素地が整いつつある状況等を踏まえて、目指すべきシナリオの検討を行った。